

小學修身鑑補 卷六

257  
388

館誌書會育教本日大			
冊	號	架	函

不認定等

K120.1  
1  
6

K120.1

1

6

吉田利行編輯

版權所有

# 小學修身鑑補

魁玉堂藏版

## 小學修身鑑補卷六

吉田利行編

### 第一 忠節

① 患ニ臨テ國ヲ忘レザルハ  
忠ナリ 左傳

② 國ヲ憂ヘテ家ヲ忘レ軀ヲ  
殉トシテ難ヲ濟フハ忠臣ノ  
志ナリ 文選

③ タイロル州ノ僻村ニ住居

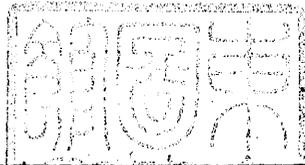
① 臣下ハ忠節ヲ以

テ君ニ事アルヲ根

本トス

翁問答

10465



# 小學修身鑑補卷六

## 吉田利行編

### 第一 忠節

一 患ニ臨テ國ヲ忘レザルハ  
忠ナリ 左傳

一 國ヲ憂ヘテ家ヲ忘レ軀ヲ  
殞トシテ難ヲ濟フハ忠臣ノ  
志ナリ 文選

一 タイロル州ノ僻村ニ住居

一 臣下ちゆうげハ忠節ヲ以  
テ君ニ事フルヲ根  
本トス ほん  
翁問答

修身鑑補

卷六

一

吉田利行

ハンス提  
軍セザル  
ヲ兼ク話

スル寡婦ノ子ニ「ハンス」ト云ヘルモノアリ母ニ事ヘテ孝  
ヲ竭シ常ニ辛勞ニ服シテ母ノ貧苦ヲ助ケント欲スレト  
身ニ痲疾アリテ如何トモスル能ハズ其十五歳ノ時ニ及  
ビ佛國ノ那破翁兵威ヲ全歐洲ニ輝サントテ數萬ノ大軍  
ヲ以テタイロル州ニ侵入セリ「ハンス」ノ住スル地ハ佛軍  
侵撃ノ要衝ナリ故ニ人々防禦ノ備ヲナセリ然レトモ「ハン  
ス」ハ跛脚ナレバ母ト共ニ傍觀スルノミニテ戰役ニ服ス  
ルコト能ハズ一日其母「ハンス」ニ語りテ曰ク汝ハ痲疾ヲ  
以テ軍役ヲ課セラレザルハ幸ナリト「ハンス」涙ヲ流シ嘆  
息シテ曰ク母君此地ノ人々ハ皆國ノ爲メニ忠義ヲ盡ス  
ヲ得ルト雖モ吾ハ痲疾アルヲ以テ手ヲ下スヲ能ハズ眞  
ニ無用ノ民ナリ吁既ニ孝ヲ盡ス能ハズ又忠ヲ致ス能ハ

正行出陣  
如雲輪堂  
ニ和歌ヲ  
題スル話

ズト大ニ歎キタリ  
三楠正行四條殿ノ戰ニ國ノ爲メ討死セシトハ既ニ前卷  
ニ在リ今復其出陣ノ時ノ事ヲ擧ゲルニ賊尊氏高師直師  
泰ヲシテ二十餘州ノ兵ニ將トシ來リ攻メシムルニ依テ  
正行弟正時等ト天皇ノ行宮  
ニ詣リ奏請シテ曰ク先臣正  
成嘗テ微カヲ展ベテ強賊ヲ  
挫キ以テ先帝ノ宸憂ヲ安ン  
シ奉リシモ幾バクモナクシ  
テ天下復タ乱レ逆徒來リ犯  
スニ及ビ遂ニ命ヲ湊川ニ效  
シタリ臣時ニ年十一命シテ

ニ其土地ヨリ生ズ  
ル穀ヲ食シ其國ニ  
居ルモノ皆君ノ德  
ヲ戴クナリ 童子訓

八景參事監用 卷之六 官

河内ニ歸シ屬スルニ餘燼ヲ収合シテ國讎ヲ報復スル  
 ヲ以テス臣年已ニ壯ナリ常ニ待ツテアルノ身ヲ以テ測  
 ラザルノ疾ニ罹リ上ハ不忠ノ臣トナリ下ハ不孝ノ子ト  
 ナラントテ恐ル今賊ノ渠帥大擧シテ來リ犯ス是真ニ臣  
 ガ命ヲ效スノ秋ナリ臣彼ガ首ヲ獲ルニ非ズンバ臣ガ首  
 ヲ彼ニ授ケン雌雄ノ決此ニ一戰ニ在リ願クハ一タビ天顏  
 ヲ拜シテ行クト得ント言畢テ涙下ル天皇黨ヲ掲ゲテ  
 臨視シ親シク之ヲ慰勞シ給フ正行拜泣シテ出テ衆ヲ率  
 ヰテ先帝ノ廟ヲ拜シ族黨百四十三人ノ姓名ヲ吉野ノ如  
 意輪堂ノ壁ニ題シ和歌ヲ其後ニ書シテ忠膽ヲ留メタリ  
 其詞ニ曰ク

かへらどと煮てたもへば何づき弓

なき數まいる名をぞとむる

② 賦ヲ輸シ役ニ應ジカヲ勉メテ事ニ從フハ義ノ當ニ然  
 ルベキ所ナリ若シ先ダツト能ハザルモ必時ニ後ル可カ  
 ラズ 張揚固集

③ 君ハ我ヲ養ヒ給ヒテ父母  
 妻子奴婢モ皆君恩ニヨリテ  
 育クミ衣服居室器物万ツノ  
 財用マデ皆是君ノ賜ナリ其  
 恩甚大ナリ常ニ其恩ヲ思ヒ  
 テ忘ル可カラズ 初學訓  
 ③ 村上義光元弘三年ノ乱ニ  
 護良親王ニ從ヒ吉野ヲ守ル

義光義隆  
 父子親王  
 ノ爲メニ  
 討死シ事

小學家身監甫

卷之六

三

コト

官

③ 父母ニ事ヘテ能  
 ク其力ヲ竭シ君ニ  
 事ヘテ能ク其身ヲ  
 致ス いた 論語

北條氏ノ大兵來リ攻ム城將  
 サニ陷ラントス義光親王ニ  
 勸メテ脱レ去ラシメ而シテ  
 自ラ其鎧ヲ被リ親王ト稱シ  
 テ城樓ニ登ル其子義隆俱ニ  
 死セントス義光曰ク亟カニ  
 去テ親王ノ爲メニ後ヲ拒ガ  
 徒死スルコト勿レト義光親王  
 已ニ速キヲ度カリ乃チ大呼シテ賊軍ニ向テ曰ク今上ノ  
 第三子護良引決ス汝等行天誅ヲ受ケン我ヲ自ヌスルヲ見  
 テ以テ法トセヨト乃チ腹ヲ割シ勝ヲ抽ンデ壁ニ投ジテ  
 斃ル賊集リテ其首ヲ斬リ去レリ既ニシテ吉野執行ノ兵

④ 學ヲ爲スノ初メ

先ヅ須ク皇國ノ隆

盛ト上下ノ分別ト

ヲ知ルヲ要ス

五百騎親王ヲ途ニ遮ル義隆單身留リ闘ヒ數人ヲ斬リ身  
 ニ十餘創ヲ被フル親王既ニ速キヲ度リ遂ニ叢竹中ニ入  
 リ腹ヲ潰シテ死ス親王終ニ免ル、コトヲ得給ヘリ

④ 我國ハ開闢以來今ニ至ルマデ君臣父子自ラ定マリテ  
 名分大義既ニ立チ君ハ則チ万世不易ノ君ニシテ臣民モ亦  
 万世不易ノ臣民ナリ 名分大義説

⑤ 伊勢ノ本居宣長初メ醫ヲ業トシ後賀茂ノ真淵ニ從テ  
 國書ヲ學ブ常ニ世儒ノ我國ヲ擯シ動モスレバ支那ヲ推

尊スルヲ嘆ジ取テ慨言ヲ著  
 ハシテ其妄ヲ折ク又嘗テ古

事記傳ヲ著ハシ之ヲ朝ニ獻  
 ゼント欲ス廷臣布衣ノ著書

⑤ 人各其分ヲ守レ

天下平ナリ

天覽ヲ贖スヘカラズト爲シ之ヲ奏セズ後數十年仁孝天皇常ニ古事記傳ヲ讀ミ黼座ヲ離シ給ハズ世以テ身後ノ榮トス後平田篤胤ト云フ者アリ宣長ノ學ヲ尸祝シ自ラ其墓ニ詣リ矢ヒテ弟子トナル是ニ於テ其業益廣マリ皇風大ニ振フ好事ノ者宣長ノ像ヲ畫キテ海内ニ傳播スルニ至レリ

(五)我君ハ千代ハ八千代ヲをいさ石の巖となりて苔のむすまそ

古今集

## 第二自守

(一)心だま誠の道  
かなひなき

(一)神明ハ人ノ心ニ

いのらびとても

神ホまもらん 管丞相

在り 尊猷親王遺訓

(二)人我ニ從ハズ我ニ背カバ我過ヲ責メテ人ヲ尤ム可カラズ人ニ求メズシテ我身ニ求ムベシ 大和格判

(二)天ヲ怨ミズ人ヲ尤メズ 論語

(三)心だま我思ふまハかなまぬを

人をくらみむことヨリぢなき

明倫歌集

(三)梁ノ宋就嘗テ邊ノ縣令タリ其地楚ト界ヲ鄰ス梁楚ノ邊亭皆瓜ヲ種ウ梁人歎其瓜ニ灌グ瓜美ナリ楚人其瓜ニ灌ク一稀ナリ瓜惡シ楚ノ令因テ梁瓜ノ美ナルヲ以テ其

(三)人ハ兔モアレ角

宋就他境ノ瓜ニ灌キテ暴ヲ防グ詔

亭瓜ノ惡キヲ怒ル楚人心ニ  
 梁人ノ賢ヲ惡ム因テ往テ夜  
 竊カニ梁亭ノ瓜ヲ擡ク瓜皆  
 焦死ス梁人之ヲ覺リ亦竊カ  
 ニ往テ楚亭ノ瓜ヲ報擡セン  
 ト欲シ之ヲ就ニ告グ就曰ク  
 惡シ是怨禍ヲ構フルノ道ナ  
 リ人惡ヲ爲シ吾モ亦惡ヲ爲  
 ス何ゾ偏ナルノ甚シキヤ今我レ子ニ教ヘン每暮人ヲシ  
 テ往テ竊カニ楚亭ノ爲メニ善ク其瓜ニ灌カシメ楚亭ノ  
 人ヲシテ之ヲ知ラ令タル勿レ是ニ於テ梁亭ノ人就ガ言  
 ノ如クス楚亭ノ人且ニ行テ瓜ヲ見レバ則チ皆以テ灌ギ

モアレ我ハ我一分  
 ノ道ヲ盡シテ人  
 惡シキヲ學ブ可カ  
 ラズ 大和中庸

瓜日ニ以テ美ナリ楚亭恠テ之ヲ察スレバ則チ梁亭ノ人  
 之ニ灌グナリ楚亭ノ人之ヲ聞知シテ大ニ悦ビ因テ以テ  
 楚王ニ告グ王之ヲ愧ヂ吏ニ告テ曰ク此レ梁ノ陰謀ナリ  
 ト乃チ謝スルニ重幣ヲ以テシ交ヲ梁王ニ請フ梁楚ノ歡  
 實ニ就ニ由テ始ル  
 ③ 自ラ信ズル者ハ人ヲ疑ハズ人モ亦已ヲ信ズ疎遠モ同  
 馳タルベシ自ラ疑フ者ハ人ヲ信ゼズ人亦已ヲ疑フ骨肉  
 皆仇敵ト成ル 類體集  
 ④ 寒ヲ禦グニハ裘ヲ重ヌル  
 ニ如クハナシ誇ヲ息ムルニ  
 ハ身ヲ修ムルニ如クハナシ 古語

④ 人或ハ已ヲ毀ラ  
 バ退キテ之ヲ我身

④ 己未ダ善ナラガレバ人之ヲ譽ルモ喜ブニ足ラズ己善アレバ人之ヲ毀ルモ怒ルニ足ラズ 薛文清

⑤ 己ヲ責ムレバ身修マル人ヲ責メザレバ入ノ怒ミナシ 大和俗訓

⑤ 唐ノ程皓性周慎人ノ短ヲ談ゼズ入ノ讒議スル所アルヲ見ル毎ニ未ダ嘗テ應セズ其言畢ルヲ俟テ徐カニ爲ニ之ヲ白シテ曰ク此レ皆衆人ノ妄傳ナリ其實ハ爾ヲト吏ニ其人ノ諸事ヲ美ヲ説キテ以テ之ヲ稱セリト云フ

ニ求ムベシ 王昶

⑤ 人ヲ責ムルノ心

ヲ以テ己ヲ責ムレ

ハ過寡ナシ 省心錄

⑥ 己ヲ責ムルハ厚キヲ要ス人ヲ責ムルハ薄キヲ要ス 呂新吾雙小兒語

王且管ニ  
報ニルニ  
愚ヲ以テ  
スル詰

⑥ 宋ノ王且寇準ニ書ヲ送リシガ其文面規則ニ違ヒシカバ寇準直ニ之ヲ天子ニ奏シテ王且ヲ罪ニ陷レタリ其後寇準王且ニ送レル書亦同シク過失アリケレバ王且ノ屬官之ヲ見テ大ニ喜ビ先キノ讎ヲ報イメントシケルニ王且之ヲ押留メテ曰ク先キニ寇準ノ爲シタル事ヲ如何ニ思フヤト人々曰ク彼ノ所爲實ニ惡ムベキナリ故ニ讎ヲ反

⑥ 人ノ辨解ヲナス

ニ巧ナル者ハ却テ

事ヲナスニエナル

一能ハズ フランクリン

サントムルナリト王且曰ク彼ノ所為惡シト思ハレ何故ニ其惡シキニ倣フヤトテ遂ニ其書面ノ誤ヲ寇準ノ許ニ申シ送りタレバ寇準大ニ愧チタリ

(六) 君子ハ人ノ美ヲ成シ人ノ惡ヲ成サズ小人ハ之ニ反ス 論者

(六) 人ノ陰私ヲ攻許スル勿レ故サラニ人ノ忌諱ヲ犯ス勿レ 青梅錄

(七) 人ノ一言ヲ得ルハ千金ニ勝レリ千金ハ得易シ好言ハ求メ難シ 願體集

(七) 良藥ハ口ニ苦ガキモ病ニ利アリ忠言ハ耳ニ逆フモ行ニ利アリ 史記

人ノ一タビ諫メタルハ永ク心ニ

信長諫死ノ士ヲ辱待スル話

(七) 織田信長少カキ時放縱ニシテ動止常アラズ平手政秀儀之ヲ諫ム信長聽カズ政秀憂慮シテ曰ク吾保傳ノ任ニ在リテ匡救スル能ハズ何ヲ以テ人間ニ視息センヤト諫書一封ヲ留メテ遂ニ自殺ス信長驚惋シテ自ラ答メ屏居出デズ為メニ佛寺ヲ建テ名ヅケテ政秀寺ト曰フ忌日ニハ必詣リテ香花ヲ供ス自ラ誓テ曰ク吾徒ニ悔ルモ益ナシ當サニ過ヲ改メ行ヲ勵ミ大功ヲ天下ニ立テ、以テ前失ヲ償フベキノミト益武事ヲ講ジ兵備ヲナシ天正中ニ至リ遂ニ天下ノ大半ヲ定メ威名京畿ニ藉々タリ近臣或ハ媚ヲ獻ジテ曰ク政秀曩ニ君ノ大業ヲ成ス此ノ如キヲ

留メテ忘ル可カラズ 童子訓

ハ早參身監甫 卷之六 八 三 一 官

察セズシテ早ク自ラ死ヲ決セシハ性急ト謂フベシ信長  
 色ヲ作シテ曰ク言何ッ妾ナル當初政秀一死ノ諫メナカ  
 リセバ吾何ヲ以テ此ニ至ル一ヲ得ン吾ガ今日アルハ皆  
 政秀ノ力ナリ汝乃キ目スルニ性急ヲ以テスル唯ニ政秀  
 ニ無禮ナルノミナラズ吾ヲシテ追悔感々トシテ己ム  
 能ハザラシム汝ガ言ノ妾モ亦甚クシカラズヤ

或ハ始メニ厚ケレド終ハリニ薄クスルハ人ニ交ハル道  
 ヲ失ヘルナリ 初學訓

八人ニ交ハルニ始メ終ハリ厚クスベシ薄クスベカラズ  
 或ハ始メニ厚ケレド終ハリニ薄クスルハ人ニ交ハル道  
 ヲ失ヘルナリ 初學訓

八人ノ富メル時親マズ貪キ  
 時疎ンゼザルハ真ノ大丈夫  
 ナリ人ノ富メル時進ミ貧キ

八富ミテハ貪キ者  
 ヲ忘ル可カラズ。貴

金忠和怨  
 ヲ棄テ、  
 人ヲ用フ  
 ル事

時退クハ真ノ小人ナリ 類體

八明ノ金忠人片善アレバ必  
 之ヲ稱ス素ヨリ忠ト恊ハザ  
 ル者アリト雖モ其人他善ア  
 レバ未ダ嘗テ稱セズンバア  
 ラズ里人數忠ヲ辱ムル者ア  
 リ忠尚書タル時其人吏ヲ以  
 テ京師ニ求リ容レラレザラ  
 ン一ヲ懼ル忠之ヲ薦用ス或  
 曰ク彼ハ公ニ憾ミアラズヤ  
 忠曰ク顧フニ其才用フベシ  
 奈何ゾ私ヲ以テ故サラニ人  
 ノ長ヲ掩ハンヤト

クシテハ賤キ者ヲ  
 慢ル可カラズ 初學訓

# 第三 仁恤

① 我身ノ養ヒヲ薄クシテ父母ノ奉養ヲ厚クスベシ次ニ兄弟親戚朋友ノ貧窮ナルヲ救フベシ 家道訓

ウシユコノ馬恩施ノ場所ニ駐ル語

② ポーランドノ勇者ゼ子ヲルユシユスコハ慈善ナル人ナリ一日憎ニ美酒ヲ贈ラン

トテ從者「ゼルトルト」ニ命ジテ已レガ馬ニ乘セ齋ラシ遣リシニ從者反命シテ曰ク「僕復タ主君ノ馬ニ乘ル能ハザルナリ其故ハ路傍ノ貧人帽ヲ脱シ恩施ヲ乞フ片ハ馬駐リテ進マズ初其意ヲ知ラサレ氏良悟リテ公ノ常ニ此馬ニ乘リテ貧者ニ物ヲ給與セルニ馴レテ如是ナルベシ然

① 世間第一ノ好事ハ難ヲ救ヒ貧ヲ憐ムニ如クハナシ 五種遺規

レ氏僕錢ヲ齋ラサレリシ故之ヲ給スルマ子シテ馬ノ心ヲ厭足セシメ使ヲ勤歸レリト之ヲ以テ「ウシユスコ」ノ人ト爲リ想ヒヤルベシ

① 心ヲ處シ事ヲ行フハ須ク人ヲ利スルヲ以テ主トスベシ例ヘバ路上ノ一磚一石モ足ニ碍ルアラバ之ヲ去ルモ亦即チ是善事ナリ 唐苑

② 家ノ主ハ常ニ仁愛ニシテ善ヲ行フヲ以テ樂トシ勤ムベシ餘財アラバ兄弟親戚ノ貧窮ヲ賑ハシ朋友ノ乏シキヲ助ケ窮民ノ頼ル所ナキ者アラバ我力ニ隨ヒテ救フベ

② 貧苦ノ親鄰ヲ見テハ須ラク温恤ヲ加フベシ 治家格言

ドロモンド  
貧人の極  
ヲ送ル語

シ 家道訓  
②西語ニ曰ク仁惠ノ一錢ハ法律上ノ拾錢ニ勝ル  
③千七百五十年ノ頃エジンバラフノ府尹ヨールジト  
ロモンドハ仁惠ヲ以テ稱セラレタル人ナリ一日エフト  
ポルトヨリ府ニ歸ル途中ニテ貧人ノ葬ニ遇ヒシガ柩ヲ  
舁モノ四人ノ外一人モ送ルモノ無キヲ見テ怜ミ思ヒ自  
ラ吊者トナリテ之ヲ送りケルニ會府尹ヲ知ルニ貴人ニ  
遇ヘリニ貴人異シミテ其所為ヲ問フニ此ノ由ヲ告ゲ、  
レバ二人大ニ感嘆シ與ニ吊者トナリ送り行クニ數町ナ  
ラズシテ復數人ニ遇ヒ俱ニ共ニ之ヲ送り頗ル華儀ヲ諷  
ヘテ墓所ニ至リ事畢リテ右舁人ニ問ラテ曰ク死者妻孥  
有リヤ曰ク妻アリ極貧ニシテ且老イタリドロモンド乃

卯右衛門  
及ヒ妻子  
窮民ヲ救  
フ語

子送衆ニ向ヒ今日ノ事誠ニ吾儕ノ奇縁ナリ彼ノ無告ノ  
寡婦ニ慈惠ヲ加ハヘザレバ去ルニ忍ビザル所ナリ君等  
モ亦同志ナラバ幸ヒナリト云ケレバ各尤ト同意シ若干  
金ヲ扶助シ寡婦ニ相當ノ生業ヲ營ナマシメ公助ヲ願ハ  
ズシテ生涯安堵ニ糊口セシメタリ  
③鈴木卯右衛門ハ出羽國莊内鶴岡ノ人ナリ天明八年ノ  
鐵鐘ニアタリ陸奥國ハ殊ニ甚シク餓草路ニ充キ其ノ未  
ダ死ニ至ラザル者ハ四方ニ走りテ食ヲモトメ慘澹ノ狀  
目ニ絶エズ見エケルガ莊内  
ノ鄰國ナルヲ以テ食ヲ乞フ  
モノ道路ニ陸續タリ鶴岡ノ  
人々皆ナカヲツクシテ之ヲ

三 人物ヲ我ニ乞ハ  
厭フ一勿レ我物

救ヒタリ卯右衛門ハ固ト小  
吏ニシテ家ニ少シノ貯ヘヲ  
生シケレバ職ヲ辭シテ農業  
ヲナシケルガ家財田圃盡ク  
賣却シテ此ノ資ニ供シ其ノ妻モ亦タ之ガ為メニ衣服什  
器ヲ賣リ僅ニ新衣二領ヲ殘セリ一日之ヲモ販ギテ其ノ  
費ニ充ント謀ルヲ卯右衛門ハトメテ婦人ハ他ニ出ツ  
ル時一領ノ好衣ナキトキハ不可ナリト云ヒケレバ妻ハ  
好衣アレバ他出ノ念起リ他出ノ念起レバ櫛篦等ヲ吝ム  
ノ念又夕起ラン今既ニ他出ノ念ヲ断チタレバ衣服櫛篦  
ミナ無用ナリ然ルニ此ノ價ヲ投セバ尚ホ數多ノ人ヲ救  
ヒ得ベシトテ肯ハザリシトツ

# ヲ人ニ乞フハ厭フ ベシ 言志後録

又其ノ明春ニ至リ一日十二三歳ノ小女饑疲シテ門ニ立  
チ食ヲ乞フアリ風雪殊ニ甚シク衣ヲ重ヌルト雖モ寒風  
堪フベカラザルニ其ノ娘ハ縊縷ノ單衣一領ヲマトヘリ  
妻ハ之レヲ見テ十二歳ナル娘ヲヨビテ汝ハ厚衣二領ヲ  
重ネタリ彼ハ汝ガ年ト多ク差ハザルベケレバ汝ノ衣服  
ニテ適當セン且時正ニ春暖ニ向ヒヌレバ汝ノ着タル衣  
一領ヲヌギテ之ヲ與ヘヨト云ヒケレバ娘ハ欣然トシテ  
其ノ言ニ從ヒケルニゾ夫婦ハ限り莫ク喜ビケリ  
③人ヲ救フニハ徒ニ財ヲ以テスルノミナラズ或ハ代リ  
テ其冤ヲ白シ或ハ其事ヲ解釋シ或ハ一人ヲ以テ衆人ヲ  
倡ヒ或ハ此ヲ以テ富貴ノ人ヲ鼓舞勸誘ス皆是人ヲ救フ  
ノ道ナリ 習是編

④君子ハ義ヲ重ンズ故ニ財ヲ輕ンジテ人ノ急ヲ救フ小人ハ利ヲ重ンズ故ニ財ヲ吝シミテ人ノ窮ヲ賑ハス一能ハス 初學知要

④王曾ハ青州ノ人ナルガ嘗テ京ニ在テ甜水巷ヲ過ギシニ二人ノ女ノ痛ク悲ム聲ノ聞エシカバ其鄰家ニ至テ子細ヲ問フニ鄰人曰ク彼ハ小吏ナルカ四万錢ノ借財アリテ返濟ノ計ナク一人ノ娘ヲ賣テ返濟セントス故ニ母子別ヲ惜ミテ悲メルナリト王曾甚之ヲ憐ミ直ニ其家ニ至リテ問フニ鄰人ノ言ノ如シ

王曾娘ノ母ニ謂テ曰ク汝ノ娘ヲ我ニ與フヘシ我ハユクク京ニ仕官スベキ者ナレバ母子永ク相列ル、一ナカルベシトテ四万錢ニ當ル銀ヲ與ヘケレバ母子ハ大ニ悦ビテ既ニ賣リタル人ニ其金ヲ還シテ娘ヲ王曾ノ許ニ送ラントセシニ王曾ハ三日ノ後ニ迎フベシトテ立歸リ再ビ其家ニ音信セズ頓テ其儘國ニ歸リ後高官ニ上リ沂國公ニ封ゼラル

④人ニ施シテハ慎テ念フ一勿レ施ヲ受ケテハ慎デ忘ル一勿レ  
崔子玉座 右銘

⑤善ヲ積テ報ヲ天

ニ望ム者ハ福ナシ

恩ヲ施シテ報ヲ人

金幣貧民ニ陰徳ノ施入話

富ヲ先キニシ貧ヲ後ニスル  
カ如キ一アヲス其俗醫家出  
入スル必肩輿ニ乘ル然レモ  
輟ハ年八十ニシテ猶ホ歩行  
ス危症アリ貧ニシテ人參ヲ服スル一能ハザル者ニ遇ヘ  
バ竟ニ自カラ備ヘ密ニ藥劑中ニ投ズ活ス所ノ者算無シ  
一日市ニ入り妻ヲ鬻ギテ以テ官錢ヲ償フ者アルヲ見テ  
即チ代テ之ヲ償フ

ニ求ムル者ハ徳ナ  
シ畜徳録

# 第四 立志

一 學ヲ為スハ正ニ水ヲ上ル  
ノ船ヲ撐スガ如シ一篙モ放

一 志ハ一日モ墜ス

緩ニス可カラズ畜徳録  
一 夫學ハ志ヲ立ルヨリ先ナ  
ルハナシ志ノ立タザルハ猶  
其根ヲ種エズシテ徒ニ培養  
灌既ヲ事トスルガ如シ勞苦  
スルモ成ル一ナシ傳習録

可カラズ心ハ一時  
モ放ツ可カラズ

二 書ヲ讀ムモ自家身心ノ上  
ニ體貼シ工夫ヲ為サハレバ  
天下古今ノ書ヲ讀ミ盡スト  
雖モ猶益ナキナリ讀書錄  
二 志立タザレバ舵ナキノ舟  
銜ナキノ馬ノ如シ漂蕩奔逸

二 道近シト雖モ行  
カサレバ至ラズ事  
小ナリト雖モ爲サ

シテ何ガ底ル所ヲランヤ  
王陽明

ハレバ成ラズ  
韓詩  
外傳

コロンピユス  
阿米利加  
ヲ發見ス

三コロンピユスハ西曆千四百三十五年ニ伊太里ノザノ  
 アニ生ル其父ハ羊毛ヲ剪テ生計ヲ營メリコロンピユス  
 天賦聰明ニシテ深ク天文地  
 理及ビ航海ノ學ヲ好ミ十四  
 歳ノ時水客トナリテ諸國ニ  
 航シ絶大ノ功業ヲ建ント欲  
 スルノ念ヲ萌セリ年三十五  
 ニシテ里斯本ニ移リ廣ク當  
 世ノ學士ト交ハレリ然ルニ  
 古キ學士ノ説ニ地形ハ圓ナ  
 リト云ヲ聞キ又西風ノ強キ時ニ木材ノ彫刺セルモノト  
 未ダ知ラザル人種ノ死骸トアゾールノ海濱ニ漂着セシ  
 一アルヲ見テ思ヘラク未ダ人ノ見聞セザル國アルベシ  
 ト是ヨリ新世界ヲ發見セント欲シテ葡萄牙王ニ説キシ  
 ニ王ハ之ヲコロンピユスニ任ゼズシテ竊ニ臣下ニ命ジ  
 船ヲ職ヒテ索メシメシニ猛風剽浪ノ為メニ困メラレテ  
 徒ニ飯リ來レリコロンピユスハ是ヨリ東西ニ奔走シテ  
 其事ヲ果サンテヲ求ムレト之ヲ信ズル者ナクシテ空シ  
 ク若干ノ星霜ヲ經タリ此間窮乏殊ニ甚シクシテ數多ノ  
 辛苦ヲ嘗メクルガ遂ニ西班牙ニ到リテ王「ヘルザナンド」  
 ニ説キテ曰クモシ新土ヲ發見セバ其地ノ總督ニ命セラ  
 ルベク且所得ノ利益十分ノ一ヲ分チ賜ハルベシ又自分

志ノ趣ク所ニ遠

キモ達セザルナシ

窮山鉅海モ限ル能

ハズ畜徳録

ハ  
 學  
 身  
 監  
 傳  
 卷  
 之  
 六  
 十  
 五  
 皇  
 館

此舉ノ費用八分ノ一ヲ辨スベキ旨ヲ陳ベテ懇願シタル  
 氏時戦争ノ後ニ際シ國用缺乏シタルヲ以テ請フ所ノ三  
 艘ノ舟ト航海ノ資金トヲ得ルコト能ハズ快々トシテ將  
 ニ他國ニ行カントセシガ王妃「イサベラ」其志ノ撓マザル  
 ニ感ジテ已ガ愛玩スル所ノ宝玉ノ粧具ヲ悉ク賣却シ俄  
 ニ船艦ト要具トヲ備ヘテ「コロンビユス」ニ授ケタリ「コロ  
 ンビユス」ハ始メテ其素懷ヲ遂グベキ時機至リ二艘ノ船  
 ト一艘ノ巨艦トニ乗ジ人員總テ百二十四人ア「アンタロジ  
 ヤ」ノパロス港ヲ出帆シタリ

此行ヤ前代未聞ノ航海ナレバ「コロンビユス」ノ外ハ皆大  
 ニ怖レテ宛モ死地ニ入ルガ如キ思ヲ懷ケリ然レモ「コロ  
 ンビユス」ノ剛胆ハ恰モ羅針盤ノ北斗ヲ指スガ如ク確乎

トシテ屈撓スルヲナク開帆後四十日ノ間西ニ向テ航セ  
 シニ羅盤針忽正直ニ北斗ヲ指サバリケレバ船中ノ者皆  
 驚愕セシニ「コロンビユス」懇ニ其理ヲ説キテ之ヲ鎮メタ  
 リ斯テ船中ノ人天涯一片ノ雲ヲ望ミテハ或ハ陸地カト  
 疑ヒ或ハ萍草ノ波ニ漂フヲ見テハ陸地ノ近キニ在ラニ  
 カト思ヒ只其心腸ヲ傷メルノミニシテ前途ノ目的ナカ  
 リケレバ水手等相會シテ「コロンビユス」ヲ海中ニ投ゲ入  
 レ舊路ヲ求メテ飯ランヲ計リ又然レモ「コロンビユス」  
 ノ豪胆ハ依然トシテ變ビズ能ク衆人ノ怒ヲ鎮メタリ既  
 ニシテ陸ノ近傍ニ非ザレバ産セザル魚類河藻或ハ彫木  
 等ノ波上ニ漂ヘルヲ見テ人々稍力ヲ得タリ一夕「コロ  
 ンビユス」船樓ニ在テ水烟ノ暗淡ナル中ニ遙ニ火光ノ閃メ

クが如キヲ見テ二人ノ親友ヲ招キケルニ一人ハ之ヲ認  
 メ得一人ハ火光ノ或ハ高ク或ハ低ク輝クヲ見出セリ已  
 ニシテ前ニ進ミタル船ヨリ硝砲ヲ放チテ陸地ノ近キ  
 ヲ報ジケルが次ノ晨ニ多年ノ宿望初メテ達シ「コロンビ  
 ヌス」ノ船ハ陸地ヲ去ル「僅ニ二里半許ナル所ニ在リ」コ  
 ロンビユス「ハ踴躍シテ打喜ビ身ニハ美服ヲ着ケ手ニ西  
 班牙ノ國旗ヲ持チ陸ニ上テ天神ヲ拜シ劍ヲ抜キテ永ク  
 西班牙國ノ領地タラン」ヲ祝シ之ヲサンサルワードル  
 ト名ヅケタリ即「バハマ群島」ノ一ナリ  
 土人等初メ「コロンビユス」ノ船ヲ望ミテ其巨大ナルニ驚  
 キ帆ヲ張レルハ羽翼ニシテ砲ノ響クハ吼聲ナリトシ如  
 ヲ携ヘ老ヲ扶ケ深林ノ中ニ潛ミ隠レタリ已ニシテ上陸

スル人々ノ美麗壯嚴ナルヲ見テ又目ヲ驚カシ、ガ西班  
 牙人之ニ精好重價ノ物品ヲ與ヘシカバ漸ク慣レ親ムニ  
 至レリ「コロンビユス」ハ接近ノ島嶼ヲ屢視シ此地ヲ名ケ  
 テ「西印度」ト稱ス此島嶼ハ猶亞細亞ノ一部ニシテ印度ノ  
 西部ト思ヒシニ由テナリ「コロンビユス」ハ往復七ヶ月ト  
 廿日ニシテ「パロス港」ニ還リケレバ國王々妃ヲ初ノ其大  
 功ヲ稱セザルハ莫シ是ヨリ後「コロンビユス」尚三回ノ航  
 海ヲナシ王ニ乞テ漸次ニ人民ヲ此地ニ植シ尚ホ處々ヲ  
 經テ遂ニ「亞米利加」ノ大地ヲ檢出シ許多ノ植民地ヲ得テ  
 田野ヲ開キ金鑽ヲ穿キ大ニ「西班牙國」ヲシテ富饒ナラシ  
 メタリ

③ 難事何ゾ我ニ害アラン特ニ吾足ヲシテ益地ノ中ニ深

ク蹈ミ入ラシムルノミナピール

③西語ニ曰ク難キ一ハ希望ノ基又難キ希望ハ出精ノ種

④今日一事ヲ記シ明日一事

ヲ記ス久シケレバ則自然ニ

貫穿ス今日一理ヲ辨ヘ明日

一理ヲ辨フ久シケレバ則自

然ニ浹洽ス今日一難事ヲ行

ヒ明日一難事ヲ行フ久シケ

レバ則堅固ナリ 呂氏童蒙訓

④陽氣ノ發スル處ハ金石モ

亦透ル精神一タビ到ラバ何

事カ成ラザラン 朱子

⑤人ト爲リテハ幼キ時ヨリ

其父兄トナル人ハ其子弟ニ

書ヲ讀マセ道ヲ學ハシムベ

シ 初學訓

⑤教ヘおく事大カモバモ

道とほく聖モ

行く末の 後撰集

何とハまざると

⑤西洋ノ某村ノ農ニルウ井

ト云フ者アリテ兒子四人有

リ而シテ其家産貧シケレバ

④ 爲シ難キノ事ニ

會フテ志氣ヲハハ

ム人ハ大業ヲ成ス

一能ハズ

爲シ難キ事ニ克ク

ント欲スル志氣ア

ル人ハ決シテ功績

ヲ失フ一ナシ ハン

⑤ 田アレバ耕サバ たがへ

レバ倉廩空シ書ア まうりん かふ

レバ教ヘガレバ子

ルウ井 苦中ニ兒 語ヲ探育ス

ル内平常ニ耕作ヲ勉メテ歸  
レバ輒々其兒ヲ左右ニ集メ  
或ハ抱キ或ハ撫デ、其側ニ遊戯セシメ又其衣食ニ餘リ  
アルニ非ザレバ其食ヲ減ジテ之ニ食ハシメ其衣ヲ脱ギ  
テ之ニ着セシメタリ此時ニ其兒子皆尚幼ナレバ暖飽シ  
テ事ニ從フヲ知ラザレバル内井更ニ厭倦ノ氣色ナク  
農業ノ間暇ニハ或ハ其妻ト共ニ兒ヲ携ヘテ原野ニ散步  
シテ草ヲ摘ミ又花ヲ觀或ハ寺院ニ詣拜シテ其神ヲ拜ス  
ルノ語中毎ニ謂ヘルヲアリ曰ク願クハ我身ヲシテ健康  
無病ナラシメヨ我兩腕ハ即我兒子ノ麵包ナレバナリト  
而シテ富貴貧賤ノ爲メニ曾テ其心ヲ動サズ唯偏ニ其兒  
ヲ愛育養成スルヲヨリミ務メタリト云フ

孫愚ナリ 古文真寶

六人ノ子アルヤ須ク業アラ  
シムベシ貧賤ニシテ業アレ  
バ饑寒ニ至ラズ富貴ニシテ  
業アレバ非ヲ爲スニ至ラズ

世範

六 飽食煖衣逸居シ  
テ教ヘナケレバ禽  
獸ニ近シ 孟子

六 家ヲ興スモ子孫ナリ家ヲ  
敗ルモ子孫ナリ子孫ニ道ヲ教ヘズシテ子孫ノ繁昌ヲ求  
ムルハ足ナクシテ行クヲ願フニ齊シ 翁問答

七 子ヲ養フテ教ヘ  
ガルハ父ノ過ナリ

職分ナリ 言志録

孟軻ノ母  
子ノク  
三遷シヌ  
機ヲ斷  
話

七 孟軻ノ母ハ賢婦人ナリ始  
メ軻ノ幼ナキ片葬地ノ傍ニ  
居レリ軻ハ墓間埋葬等ノ事

學問ノ成ルナキ  
ハ子ノ罪ナリ  
古文  
眞寶

ヲ爲シテ遊戯トセリ母曰フコレ吾が子ヲ居ク所ニ非ズ  
ト因テ家ヲ市街ニ移セリ軻亦商估ノ事ヲ爲シテ遊戯ト  
セリ母又曰フコレ吾が子ヲ居ク所ニ非ズト終ニ學宮ノ  
傍ニ移リ居レバ禮儀ノ事ヲ爲シテ遊戯セリ其母始メテ  
悦テ曰クコレ眞ニ吾が子ヲ居クベキ所ナリト遂ニ永ク  
此ニ居レリ後又孟軻ノ遊學シテ中途ニ還リタル片母ハ  
偶々織リ居タル機ヲ斷チテ曰ク汝今ニシテ學ヲ休メハ  
此ノ機ノ中ヨリ斷ツガ如ク不用ナリト孟軻之ヲ聞テ大

ニ奮發シ終ニ大賢亞聖ト稱セララル、ニ至レリ

# 第五 寛厚

卓茂乘馬  
ヲ誤殺者  
へ缺フル  
事

一 漢ノ卓茂元帝ノ時初メ丞  
相ノ府吏ニ辟サル嘗テ出テ  
行クトキ偶々馬ヲ亡ヒシ人  
アリテ茂ノ馬ヲ認ム茂問テ  
曰ク子馬ヲ亡ヒテヨリ幾バ  
ク時ヲ對テ曰ク一月餘ナリ  
茂ハ馬ヲ有セル一已ニ數年  
ナレハ心ニ其謬ヲ知レ氏解

一 人ヲ待ツニ寛恕  
ニシテ刺薄ナラザ  
レバ則人悦服ス  
慎思録

テ之ヲ與ヘ車ヲ挽テ去リ願ミテ曰ク若シ公ノ馬ニ非ザレバ幸ニ丞相府ニ至リ我ニ歸セ他日馬主別ニ己ノ馬ヲ有セル者ヲ得タリ乃チ府ニ至リ茂ニ馬ヲ送リ叩頭シテ之ヲ謝セシト云フ

①心ヲ平ニシ氣ヲ和ラグルハ身ヲ養ヒ徳ヲ養フノ工夫ナリ人和平ナラザレバ百般ノ病痛之ヨリ起ル 慎思録

②小人ヲ浴ムルニハ寬平自在ニシテ從容以テ之ヲ處シ事已マバ則口ヲ絶テ言ハザレ然ル中ハ小人モ聞テ以テ其怒ヲ發スル所ナシ 薛文清

③心誠ニ色温ニ氣和ラギ詞ヲ責ム可シ人モ亦

婉ナレハ必能ク人ヲ感動ス若シ人未ダ已ヲ知ラザレバ急ニ其知ランヲ求ム可ラズ人未ダ己ニ合ハサレバ急ニ其合ハンヲ求ム可ラズ 高濂

③中江藤樹明ノ王陽明ノ學ヲ信シ躬行ヲ先ニシテ文詞ヲ後ニス毎ニ四民ヲ延キ之ヲ訓諭ス人賢愚トナク皆其徳ニ服シ善ニ興起セザルハナシ嘗テ夜外ヨリ歸ル賊數人アリ林中ヨリ突出シ路ヲ遮リテ曰ク橐ヲ解キ以テ我

其責ヲ受ケズ 言志 録  
人ヲ容ル、一能ハ  
ガル者ハ人ヲ責ム  
ル一能ハズ人モ亦  
其責ヲ受ケズ

酒錢ニ供セヨト藤樹之ヲ熟視シ錢二百ヲ取テ之ヲ授ク  
賊叱シテ曰ク我が求ル所ノ者豈唯是ノミナランヤ速ニ  
衣服佩刀ヲ卸シテ之ヲ出セ然ラズンバ汝ヲ殺ント刀ヲ  
抜キテ之レニ迫ル藤樹神色變ゼズ曰ク姑ク之ヲマテ吾  
能ク授クベキヤ否ヲ慮ラント乃チ目ヲ瞑シ手ヲ又シ少  
ラクシテ曰ク授クベキノ理ナシト即チ刀ヲ撫シテ起チテ  
曰ク戰フ者ハ先ヅ名ヲ相告グベシ吾ハ近江ノ人中江與  
右衛門ナリト賊大ニ驚キ刀ヲ投ジテ羅拜シテ曰ク弊村  
三尺ノ童子ト雖モ先生ノ聖人タルヲ知ラザルナシ吾ガ  
黨劫奪ヲ以テ活ヲナスト雖モ豈先生ニ抗スルヲ得ンヤ  
願クハ先生小人ノ罪ヲ宥セ藤樹嘆ジテ曰ク汝未ダ良心  
ヲ失ハズ教エヘキナリト乃説クニ知行合一ノ理ヲ以テ

ス賊皆感泣シ遂ニ其行ヲ改ム

③凡教戒規諫スルノ道ハ迫切ナル可ラズ迫切ナレバ則  
人ヲ忿恚シテ服従スルノ能  
ハザラシム子弟ヲ教フルガ  
如キモ亦須ク優游以テ之ヲ  
開導スベシ頑愚ナルヲ怒リ  
疾クムトナカレ慎思錄  
④舊惡ヲ思ハズ過ヲ改ムル  
ヲ憚ラズ人ノ諫メヲ聞テ即  
チ從フ之ヲ大度ト曰フ人大  
度ナラザレバ以テ大業ヲ成  
スニ足ラズ修身訓

③兄弟骨肉ノ變ニ  
處シテハ宜ク從容

ナルベシ激烈ナル  
ベカラズ頷體集

④小嫌ヲ以テ至戚

ワシントン 仇人ヲ擧  
ゲ親友ヲ  
用ヒザル  
話

四 合衆國ノ第一大統領ワシントン一友アリ獨立戦争ノ中英軍ニ向テ共ニ戦ヒ日々座右ニアリテ親ミ交リケルガ此友人農ニシテ温厚ナルモノナレモ他ノ才能ナシ會ワシントンノ專ラニスル所ノ官吏一人關ゲタレバ衆人皆彼ノ入補セラルベシト思ヘリ然ルニ一人アリ曾テワシントンノ議ニ抵抗シ且ワシントンヲ陥レント謀リタル人ニシテ又ワシントンノ親友ト仇ナリシガワシントン彼ノ人ノ才能用フベキヲ知テ之ヲ其任ニ充タリ或人此處置ヲ愚トシワシントンニ告ゲタルニ答テ曰ク我レ

ヲ疎ンズル<sup>とく</sup>勿<sup>レ</sup>レ  
新怨<sup>しん げん</sup>ヲ以テ舊親<sup>きゅう せんと</sup>ヲ  
忘ル<sup>わす</sup>、<sup>アタラシキウツクミナト</sup>勿<sup>レ</sup>レ<sup>ヒヨシクツクキアセシナカ</sup>  
願 體

友ヲ愛スルハ我赤心ヨリ出ツ然ルニ彼レ事ニ任ズル才能ナシ彼仇人ハ此才アリ故ニ我レ之ヲ擧グルノミ公道ノ間ニハ私愛及バザルナリ我レ今日ジョールシ、ワシントンニ非ズシテ合衆國ノ大統領ナリ若シワシントントクバ我友ヲ用フベケレモ大統領タレバ私ヲナスベカラズ

四 奴婢ニ對シテ其過ヲ正スニハ教ヲ本トスベシ怒ヲ先ダツベカラズ斯ノ如クナレバ奴婢ノ心ヲ得テ恨ミナク從ヒ易シ是奴婢ヲ戒ムルノ要法ナリ 大和俗訓  
五 我恭ナレバ以テ人ノ怒ヲ平ニスベク我貪ナレバ必人ノ爭端ヲ啓クヲ致ス是皆我ニ存スル者ナリ 金言

五 人小シノ過アル

⑤ 其心厚キ者ハ其福モ厚シ  
其量弘キ者ハ其福モ亦弘シ  
吳懷野

重矩宝弓  
ヲ折ラレ  
テ怒ラザ  
ル語

⑤ 板倉重矩ノ家ニ累世傳フ  
ル所ノ寶弓アリ常ニ之ヲ坐  
隅ニ置キ一日童豎其亡キヲ  
瞰ヒ數次空引ス弓忽チ折ル  
童豎老臣ニ因テ罪ヲ請フ老  
臣曰ク此レ主公累世ノ寶器ナリ今汝之ヲ折ル必盛怒ニ  
觸レント乃チ屏居シテ罪ヲ待タシム還ルニ及ビテ室老  
間ヲ伺ヒ之ヲ言フ重矩神色異ナラズ童豎ヲ召シテ徐ニ  
言テ曰ク吾此弓ヲ愛シテ常ニ不虞ニ備フ一旦事アルニ

ハ會容シテ之ヲ忍  
ベク大ナル過アル  
ハ理ヲ以テ之ヲ責  
メヨ  
朱子家訓抄

方リテ損壞セバ必危難ニ頻セン今汝空引シテ折ル此吾  
ノ幸ナリト釋シテ問ハズ

⑥ 性情ノ苛戾ナル者ハ能ク親族ヲシテ相親シマザラシ  
ム况ンヤ疎遠ナル者ヲヤ和平ナル者ハ能ク仇家ヲシテ  
其怨ヲ忘レシム况ンヤ平常  
ノ人ヲヤ 魏椿

呂蒙正朝  
ニ嘗テ  
顛倒ナル

⑥ 宋ノ呂蒙正人ノ過ヲ記ス  
ルト喜バズ初テ參知政事  
トナリテ朝堂ニ入ル朝士ア  
リ簾内ニ於テ之レヲ指サシ  
テ曰ク此ノ小子モ亦參政カ  
ト蒙正佯テ聞カザルマ子シ

⑥ 西諺ニ曰胆略アル者ハ刀杖ヲ賴マズ又曰親切ハ鬪争ニ必勝ノ利器ナリ  
タキキマフ

テ之レヲ過クソノ同列怒テソノ官位姓名ヲ詰ラシメン  
トス蒙正遽ニコレヲ止ム朝罷テ同列猶不平ナリ皆窮メ  
問ハザリシヲ悔ユ蒙正ノ曰ク否然ラズ一タビ其名姓ヲ  
知レバ終身忘ル、一能ハズ固ヨリ知ル、一勿ランニハ如  
カズ且之ヲ問ハザルモ何ノ損カアラシト時人皆ソノ量  
ニ服ス

## 第六 信實

○學者ハ以テ誠ナラザル可  
ラズ誠ナラザレバ以テ善ヲ  
為ス、一無シ誠ナラザレバ以  
テ君子タル、一ナシ程子

○人ノ心信實ナル  
ハ万事ノ基ニシテ

○人身ノ為ス所多端ナリト  
雖モ之ヲ要スルニ言行ニツ  
ノ者ニ過ギガルノミ故ニ身  
ヲ修ムルハ須ク言行上ニ於  
テ之ヲ誠ニシ之ヲ敬ムベシ初學知要

人ニ交ハルノ道ナ  
リ五常訓

與左衛門  
道者ノ子  
ヲ養育セ  
シ部

○若狹國大飯郡小堀村ノ農夫與左衛門ハ其性慈善ニシ  
テ人ヲ愛ス或夕暮ニ二人ノ女道者門ニ立チ妾等ハ四國  
ヲ巡拜スルモノニテ途ヲ失ヒシニヨリ一夜ノ宿ヲ借ン  
ト請フ與左衛門諾シテ之ヲ宿セシム一人ノ女一男兒ヲ  
抱キテ曰ク二女ノ旅行意ノ如クナラズ泥ンヤ此小兒ヲ  
抱キ其苦ミニ堪ヘズ之ヲ捨ントスレドモ犬狼ノ恐レア  
リ慈善ノ人アラバ之ヲ托セント欲ス與左衛門之ヲ憐レ

妻ニ謀ル妻諾シテ之ヲ賞ヒ我子トナセシニ二女ハ涙  
 ヲ流シ喜ビ去レリ其子ヲ宗四郎ト名ツケ養育セシガ後  
 八年ヲ經テ實子ヲ設ケ名ヲ磯八ト稱シ兄弟睦シク長シ  
 テ縁猶ヲ勤メ父母ニ仕フルコト孝順ナリ磯八他ヘ奉公  
 セントセシガ宗四郎留テ曰ク我ハ元道者ノ子ニシテ所  
 生ヲ知ラヌ者ナリ子ハ肉ヲ分ケラレシ者ナレバ家督ハ  
 子ニ讓ルベキ道理ナリ我他ニ奉公セント父之ヲ聞キ兄  
 弟ニ謂テ曰ク宗四郎ハ磯八ノ兄ナリ因テ家ヲ繼グハ順  
 ナリ汝否ム勿レト宗四郎肯ゼズ遂ニ家ヲ出デ鄰村ノ豪  
 農ヲ頼ミ奉公シ給米ヲ悉ク父母ニ送リテ家ニ歸ラザリ  
 シガ父ハ老病ニテ死セシカバ兄弟相譲リテ家ヲ繼グモ  
 ノナキヨリ村長之ヲ官ニ上申シケレバ國君感賞シテ宗

季札徐君  
 ノ墓ニ空  
 劍ヲ掛ク  
 ル事

四郎ニハ米若干ヲ賜ヒテ家ヲ繼ガシメ剩ヘ租税ヲ免ル  
 シ磯八ハ別ニ月俸ヲ賜ヒ帶刀ヲ許シ之ヲ褒賞セリ  
 三 吳ノ季札上國ニ使シテ徐ヲ過グ徐君其實劍ヲ愛ス口  
 敢テ言ハズ季札心ニ之ヲ知ル其使スルガ爲メニ未ダ獻  
 ゼズ還テ徐ニ至レバ徐君已  
 ニ歿ス是ニ於テ乃チ其實劍  
 ヲ解キ之ヲ徐君ノ冢樹ニ繫  
 ケテ去ル從者曰ク徐君已ニ  
 死ス尚ホ誰ニ予フルヤ季子  
 曰ク然ラズ吾心ニ已ニ之ヲ  
 許ス豈死セルヲ以テ吾心ニ  
 倍ムカンヤ

一 且許諾スル所  
 アレバ纖毫モ必償  
 ヒ期約スル所アレ  
 バ時刻ヲ易ヘズ

② 信ハ官ニ居リ事ヲ立ツルノ本ナリ信アルキハ民疑ハズシテ事行ハルニシ期會必約ノ如クシ冠ニ因テ違フヲ勿レ告諭必言ノ如クシ事ニ因テ改ムルヲ勿レ謹身要法

③ 誠ニシテ動カサル者ナシ身ヲ修ムレバ則身正シク事ヲ治ムレバ則事理ヨリ入ニ臨メバ則人感化ス往ク所トシテ志ノ正シキヲ得ザルナキナリニ程全書

③ 詐ヲ以テ友ヲ待テバ初メハ以テ人ヲ籠絡スルヲアルモ久シクシテ詐露ハレ友テ友ノ怨ヲ招ガ誠ヲ以テ友ヲ

③ 誠ヲ以テ人ヲ感ズル者ハ人モ亦誠

ヲ以テ應ズ

詐ヲ以テ人ヲ御ス

待テバ初メハ唯我其心ヲ盡スノミナルモ久シクシテ誠意争アリ益友ニ敬信セラル

畜徳録

ル者ハ人モ亦詐ヲ以テ應ズ 薛文清

③ 凡ソ百年前北亞米利加ノミツソリー川ノ邊ニ住メル土人ノ未タ歐人ト交ラザリシハ歐洲ノ商人銃ト火藥ヲ持チ來リ用法ヲ土人ニ教ヘ毛皮ト交易シタリ其後佛蘭西ノ一商人毛皮ヲ求ントテ火藥ヲ持チ來リシニ土人已ニ之ヲ得タリト云フテ取テザレバ佛人之ヲ欺キ是レ火藥ニ非ズ穀實ナリト云ヒケレバ土人質朴ニシテ之ヲ信ジ毛皮ト交易セリ已ニシテ土人之ヲ地ニ種エテ其生長ヲ期シタルニ何物モ生ゼズ始テ欺レタルヲ知り大ニ悔

佛人米國ノ土人ヲ欺キ返報セラル

イタリ會向ニ欺キタル人巴レ再ヒ至ルヲ恐レ他人ヲ其地ニ遣ハシタルガ土人知ラヌマ子シテ其入ヲ善ク待シ庫ヲ借シ盡ク商品ヲ蓄ヘシメテ後土人聚リ至リ大ニ嘲弄ンテ聯問ニ彼ノ商品ヲ奪ヒ去リタリ佛人此暴行ヲ居民ノ魁首ニ訴ヘケルニ答テ曰ク向ニ汝が同輩我土人ニ與ヘタル穀實ノ芽ガス迄ハ汝ガ訟ヲ聞ズ若シ芽ガス片ハ我レ汝ニ奪フタル商品ノ價トシテ毛皮ヲ與ヘント佛人大ニ窘ナミ更ニ詒ヒテ曰ク彼ノ穀實佛土ニ於テハ能ク蕃殖ス然ルニ此地ニ生長セザルハ他ナシ地ニ適セザルナリト然レモ居民既ニ火藥タルヲ熟知シタレバ速ニ之ヲ聽ザンリキ

四 明ノ李士衛余英ト使ヲ高麗ニ奉ル得ル所ノ貨物甚ダ

全英難船ニ遇ヒ巴カ物ヲ棄ル話

多シ英海ヲ過クルニ風波ノ難ヲ恐レ盡ク士衛ノ物ヲ以テ船底ニ藉キ巴カ物ヲ以テ其上ニ蓋フ船ヲ出ダスニ及ビ大風ニ遇フ船人載スル所ヲ減ゼント請ヒ手ニ任カセテ之ヲ抛ソ風定ルニ及ビテ棄ル所ヲ檢スレバ皆英ガ物ナリ士衛ガ物ハ船底ニ在リテ竟ニ一失ナシ

四 臣ト爲テ信ナラザレバ以テ君ニ奉ズルニ足ラズ子ト爲テ信ナラザレバ以テ父母ニ事フルニ足ラズ故ニ臣信ヲ以テ其君ニ忠スレバ君臣ノ道愈々睦マシ子信ヲ以テ

凡人ヲ感動スル  
一能ハザル兵是  
誠未ダ至ラザル  
ナリ 劉氏人譜

華歆同船ノ人ニ信事ヲ盡ス

其父母ニ孝スレバ父子ノ情益々隆ナリ臣軌

〔五〕華歆王朗ト俱ニ船ニ乗テ難ヲ避ケシ時一人アリ共ニ乗ラン一ヲ請フ歆ハ之ヲ拒ミシニ朗曰ク之ヲ許スモ何ゾ不可ナラント後賊追ヒ到ル王朗携フル所ノ人ヲ捨テント欲セシニ歆曰クモト疑ヒシ所以ハ此ガ為メノミ已ニ其託ヲ容レス何ゾ急ヲ以テ相棄ツベケンヤト終ニ携フル初ノ如クセリ

〔五〕内ニ誠ナキ者ハソノ言必先後アリ内ニ誠アル者ハ不辨説ナリト雖モソノ理必聞

〔五〕心ト口ト同ジキ者ハ忠信トス心ト口ト同ジカラザル者ハ忠信ニ非ズ

讀書録

モセス金ヲ預リ信ヲ守リタル事

ユベシ誠内ニ在テ外ニ顯ハルノ驗ナリ條論新

〔五〕いづれおりのを死せかりせを如何をかり  
人の言の素精からば古今集

〔六〕凡人ノ為メニ謀ルハ須ク人ノ事ヲ把リテ直チニ己ノ事ト為シ自己ニ比スレバ更ニ十分周到ナルベシ方ニ箇ノ忠ノ字ヲ了ス身並半規

〔六〕佛蘭西革命ノ片日耳曼ノフランクホルドニモセス口ツスキルドト云フ両替屋アリ頗ル人ノ信用ヲ得タル人ナリ佛軍日耳曼ヲ攻ムル片ヘツスカツサルノ候其軍ヲ避ケフランクホルドニ如キ

〔六〕人ノ附托ヲ受ケ

請ヒタルが斯ル危難ノ片ナレバ固ク之ヲ辭シタリ強ヒテ請ハレタルニ因テ辭スル一ヲ得ズ然レモ支券ヲ與フルヲイナミタリ斯ル片ニ當テハ無難ヲ保シ難ケレバナリ己ニシテ侯數千ポンドノ金及ビ寶貨ヲモセスニ送リシガ會佛兵侵シ至ルモセス遠テ、之ヲ疇ノ一隅ニ埋藏セリ事急ニシテ六百ポンドノ我財ヲ藏スル能ハズ佛兵乃チ之ヲ奪ヒ去リ他財ヲ疑ハズ事果テ後モセス疇ノ金ヲ出シ一分ヲ用テ産業ヲ營ミシガ數年ノ後兵乱定テヘツスノ侯其國ニ復シ試ミニモセスヲ召シ之ヲ問フニ無難ナル上ニ更ニ五分ノ息錢

テ疎カニスル者ハ  
善ヲ行ヒ遂ゲズ

大和俗訓

ヲ加ヘ之ヲ償ハント云ヒケレバ侯大ニ驚キタリ且藏シタル狀ヲ具ニ述ヘ彼一分ヲ用ヒタルヲ謝シケレバ侯モセスノ公直ニ感ジテ其金ヲ取ラズ僅ノ息錢ヲ以テ再ビ之ヲ托セリ且歐洲各國ノ王侯ニモセスノ公直ナル一ヲ告ケレバ王侯皆モセスヲ銀主ト爲セリモセス是ニ依テ大ニ富ヲ得タリモセス三子アリ一子ヲ英府倫敦ニ一子ヲ佛府巴里斯ニ一子ヲ豪府維納ニ遣ハシ皆豪富ノ兩替屋ト成レリ遂ニ帝王ノ軍ヲ爲スト爲ザルハモセスカ家ノ金貨ノ有無ニ由ルホドノ豪族トナリシモ獨リモセスノ善性公直ノ一徳ニ在ルノミ

⑦ 善ヲ責ムルノ道誠餘リアリテ言足ラシメバ則人ニ於

⑦ 人ノ不善ヲ聞カ

テハ益アリ我ニ在テハ自ら辱メナシ 程子

⑦人ノ生質ニ類多シ面色惡ム可キアリ愛ス可キアリ世人多クハ面色惡ム可キ者ヲ見テハ其言善シト雖モ善シトセズ况ンヤ諫メ争フニ於テヲヤ面色愛ス可キ者ヲ見テハ其言惡シト雖モ猶善シトナス是人ノ心ヲ用フ可キ所ナリ 常山紀義

婢僕ノ過ニ至リ  
テモ包藏シテ言フ  
可ラズ相告語シテ  
改ルイヲ知ラシム  
ベシ 童蒙須知

○通教

一人ハ父母ノ養ヲ得テ生長シ君恩ヲ受ケテ身ヲ養フモ其本ヲ尋スレバ皆天地ノ生ズル物ヲ用ヒテ食トシ衣トシ家トシ器トシテ身ヲ養フ故ニ凡人トナレル者ハ始メ天地ノ生理ヲ禀ケテ生ル、ノミナラズ生レテ後身ヲ終ルマデ天地ノ養ヲ受ケテ身ヲ保テリ然レバ人ハ萬物ニ勝グレテ天地ノ窮リナキ大恩ヲ受ケタリ是ヲ以テ人ハ一生ノ間常ニ天地ニ事ヘテ其大恩ヲ報ゼンイヲ思フ可シ 初學訓

一人行儀ヲ修メ生産ヲ治メ身體ヲ保ツ此ノ三ツノ者ハ人道ノ因テ立ツ所以ナリ 東涯漫筆

一強メザレバ達セズ勞セザレバ功ナク忠ナラザレバ親

マズ信ナラザレバ復△能ハズ恭ナラザレバ禮ナシ此  
ノ五ツノ者ヲ慎メバ以テ長久ナルヘシ訓子語

一 凡智愚ハ他ナシ書ヲ讀ムト書ヲ讀マザルトニ在リ禍

福ハ他ナシ善ヲ爲スト善ヲ爲サザルトニ在リ貪富ハ

他ナシ勤儉ナルト勤儉ナラザルトニ在リ毀譽ハ他ナ

シ仁恕ナルト仁恕ナラザルトニ在リ呻吟語

一 文武ノ二ツハ譬ヘバ車ノ兩輪ノ如ク鳥ノ兩翼ノ如シ

一 ツ欠ゲバ身ヲ治メ國天下ヲ治メ難シ武訓

一 天下太平ナレド武ヲ忘ルレバ危シ故ニ治世ニモ亂ヲ

忘レズ武事ヲ學ブベシ無事ナル時ニ武ヲ習ハハ後悔

ナカルベシ遠キ慮リナケレバ必近キ憂ヒアリ亂ニ臨

ミテ兵ヲ習フハ渴ニ臨ミテ井ヲ鑿ルガ如シ同上

# 小學修身鑑補卷六終



小島修身館  
卷之六  
星文館

1201

明治二十年二月八日版權免許  
同 年六月 日刻成

福岡縣士族

定價金八錢五厘

編輯人

吉田利行

福岡縣福岡區福岡濱ノ町二十二番地

同縣平民

出版人

右田喜久郎

同縣同區博多掛町十一番地

小島修身館  
卷之六  
星文館

